

いざいざ……という時のために
いつも防災の心構えを……

火災予防運動期間中の三月四日に、車両火災の消火訓練が東武日光駅横広場で、また、三月十日には、発足したばかりの「丸山地区防災会」が防災訓練を行うなど、防災に対する意識が高まっています。

この二つの訓練では、火災の消火訓練ばかりでなく、消防署救急隊員の指導による、人工呼吸法、止血法などの救急処置・応急手当の訓練も行われました。

今号は、この人工呼吸法、止血法と、家庭の中で一番おこりやすい「ヤケド」の応急手当について特集してみました。

知っておきたい人工呼吸法

突然呼吸が止まって意識不明になる——こういう事故は日常生活の中でも、いろいろ想定できます。

たとえば、海や川でおぼれたり、乳児がうつぶせでまくらに顔を埋めて窒息したり、また、浅い水の中に顔をつつこみ呼吸できなくなったなど、実に多いのです。

呼吸がすでに止まっている場合、何をおいても、人工呼吸をしてやらなければなりません。呼吸が止まってしまったとき助けるための時間的余裕は、せいぜい三、四分

なのです。

人工呼吸にもいろいろな方法がありますが、「呼吸蘇生法」がいちばん効果的。一般に活用されているのは、①口から鼻へ②口から口への二つです。

図に従って説明しますと、①②あおむけに寝かせ、片手を首の下に入れ、反対の手で額をおさえます。そして、頭を後方にそらせ、少し開いた口から、息を吹き込みます。(口↓口)このとき、鼻の

穴から空気がもれないよう、顔をおさえた手の指で、鼻の穴をつまんでふさぎます。

③口が開かないときは、首の下に入れた手をぬいて、下アゴを上押し上げるようにして、口をふさぎ、鼻の穴から息を吹き込みます。(口↓鼻)

⑤息を吹き込んで、肺に空気が入ってふくらむと、胸も大きくあがります。逆に空気がはき出されると、胸がさがっていきます。息を吹き終ったら、すぐ口を少し離し、胸の動きを確かめてください。

人工呼吸の実習

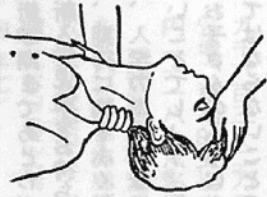


サイレンの聞きわけ方

消防署の屋上などに固定して設備してあるサイレンは、火災の種類や目的によって、それぞれ吹鳴方法が違います。たとえば……

- ◎建物火災のときは…… 5秒吹鳴 6秒休止を5回くりかえします
- ◎山林火災のときは…… 10秒吹鳴 2秒休止を5回くりかえします
- ◎地震警戒宣言が発令されたときは……45秒吹鳴 15秒休止を数回くりかえします。

なお、火災予防運動、交通安全運動、選挙などの広報に吹鳴するときは、事前にお知らせします。



①頭を後方にそらせる



②鼻をつまみ口から息を吹き込む



③口をあけにくい時は鼻から息を吹き込む



④乳幼児は鼻と口の両方を口でおおって吹き込む



⑤胸の上がり下がりと吐く息を確かめる



⑥粘液や吐物がある時は口をぬぐってやる